

あ 翔

あめつちほしそらやまかはみねたにくもきりむろこけひといぬうへすゑ
アメツチホシソラヤマカハミネタニクモキリムロコケヒトイヌウヘスエ
天地星空山川峰谷雲霧室苔人犬上末
安以宇衣於加幾久計己左之寸世曾太
ABCDEFGHIJKLMabcdefghijkl
0123456789,!.?*

—36Q / 48H

或曇った冬の日暮である。
私は横須賀発上り二等客
車の隅に腰を下して、ぼ
んやり発車の笛を待つて

—18Q / 28H

或曇った冬の日暮である。私は横須賀
発上り二等客車の隅に腰を下して、ぼ
んやり発車の笛を待つていた。とうに
電燈のついた客車の中には、珍らしく
私の外に一人も乗客はいなかった。外
を覗くと、うす暗いプラットフォオム
にも、今日は珍しく見送りの人影さえ
跡を絶って、唯、檻に入れられた小犬

—12Q / 20H

或曇った冬の日暮である。私は横須賀発上り二等客車の
隅に腰を下して、ぼんやり発車の笛を待つていた。とう
に電燈のついた客車の中には、珍らしく私の外に一人も
乗客はいなかった。外を覗くと、うす暗いプラットフォ
オムにも、今日は珍しく見送りの人影さえ跡を絶って、
唯、檻に入れられた小犬が一匹、時々悲しそうに、吠え
立てていた。これらはその時の私の心もちと、不思議な
位似つかわしい景色だった。私の頭の中には云いようの
ない疲労と倦怠とが、まるで雪曇りの空のようなどんよ

—28Q / 36H

或曇った冬の日暮である。私は横須
賀発上り二等客車の隅に腰を下して、
ぼんやり発車の笛を待つていた。と

—18Q / 28H

或曇った冬の日暮である。私は横須賀発上り二等客車の
隅に腰を下して、ぼんやり発車の笛を待つていた。とう
に電燈のついた客車の中には、珍らしく私の外に一人も
乗客はいなかった。外を覗くと、うす暗いプラットフォ
オムにも、今日は珍しく見送りの人影さえ跡を絶って、
唯、檻に入れられた小犬が一匹、時々悲しそうに、吠え

—12Q / 20H

或曇った冬の日暮である。私は横須賀
発上り二等客車の隅に腰を下して、ぼ
んやり発車の笛を待つていた。とうに
電燈のついた客車の中には、珍らしく
私の外に一人も乗客はいなかった。外
を覗くと、うす暗いプラットフォオム
にも、今日は珍しく見送りの人影さえ
跡を絶って、唯、檻に入れられた小犬
が一匹、時々悲しそうに、吠え立てて
いた。これらはその時の私の心もちと、